

独立行政法人

地域医療機能推進機構 (JCHO)

熊本総合病院だより

ぱとす



第44号

2024年
春号

Volume 12 Number 2 April 2024

市民の皆様に提供している雨にぬれない歩道（北館西側）

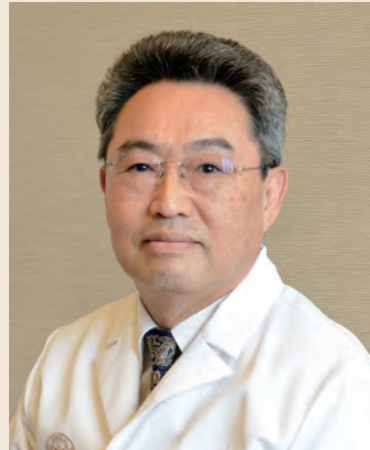


報道の基本は何処に行った

桜の美しい季節となりましたが、皆様方におかれましては其々の新しい年度に向かい、ご多忙な毎日をお過ごしのことと拝察申し上げます。

当院は、一丸となってさらに質の高い医療の実践を行ないながら、JCH0の使命である「地域医療ならびに地域包括ケアの推進」に貢献するように最大限の努力をいたしておりますことをご報告申し上げます。

そしてすべては、医師会、熊本大学教授陣、国・県・市行政ならびに市民の皆さま方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。



ところで、先日、最新の世界の報道自由度ランキングが発表されましたが、「日本は68位に上昇」したそうです。私は何とかなのランキングなどは根本的に全く信用していませんが、この「報道の自由度」にしても、よく言われるのが「日本の報道の自由度順位を向上させるには、政府による積極的な情報公開や政治・行政による報道への介入の抑制が必要」とのことです。ところが、一方で、① あっという間に採択された LGBT法案と世界の動向、② 中国のチベット・ウイグル人権侵害に対する問題、③ 再エネに対する「日本にはびこっていくメガソーラー利権」、「中国国家電網の欧州から東アジアに至る国際送電網の構想」や「再エネ議連トップK大臣疑惑」などの「報道の自由」からは自ら目をつぶっており、この方がよっぽど「報道の自由が機能していない」とも思えますが・・・。

当院に関連するある熊本の放送局の報道でも、先日、熊本県・八代市ならびに産科医療を支える熊本大学産科婦人科学、そして地域のリスクを持つ妊産婦の産科機能を引き受ける側の熊本総合病院の取材を全く行わずに、「現状明らかになっている熊本総合病院の体制では、リスクを持つ妊産婦や新生児への継続的な対応はできないのではないか」との団体の訴えを鵜呑みにして、事実と全く異なる報道を行っています。

事実を申し上げれば、現在、熊本総合病院は、熊本大学大学院産科婦人科学 近藤英治教授のご高配により、5名の常勤医師と2名の非常勤医師による「これまでの熊本労災病院における体制以上の重厚な熊本総合病院の産科婦人科体制」で、既に県南からのリスクを持つ妊産婦の受け入れを行っており、今後は、これまでの熊本労災病院の産科機能以上の役割を果たせると思っております。

実際、自然分娩はもちろんのこと、県南の産科開業医院より当院産科に緊急搬送され「緊急帝王切開手術」によって母児ともに救命し極めてスムーズな出産となったケースや、「前日に分娩した妊婦の産科危機的出血」にて緊急搬送された産褥婦も問題なく母体を救命するなど、スタートしたばかりにも関わらず、現在の熊本総合病院の重厚な産科体制でリスクを持つ妊産婦の十分な対応が行われているところです。

そこで当院としては、報道の基本である「事実に基づく公正で正確な報道」、「公共の利益のために取材・報道を行うこと」や「独立性や中立性という観点」を遵守していただきたいと、同報道局には厳重に訂正と謝罪を申し入れているところでございますので、どうか、県南地域の皆様方は、誤報道に惑わされることなく安心して当院産科を受診して頂きますようお願い致します。

以上の通り、わたくし共の熊本総合病院は、本年度も引き続き全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、地方創生・人口増加・少子化阻止にも少しでも寄与できるように、さらに精進して参ります。本年度も、皆さま方のさらなるご支援を何卒宜しくお願い申し上げますとともに、皆さま方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和6年 4月吉日

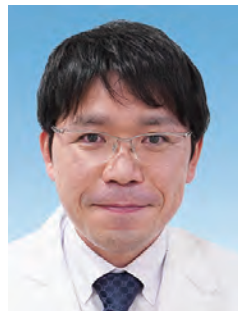
新任医師紹介



呼吸器内科部長
城基 孝之



消化器内科医長
石井 将太郎



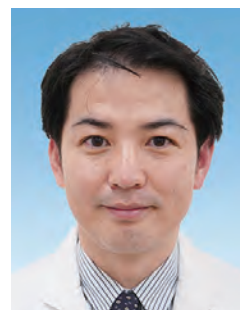
循環器内科医長
黒川 博文



外科医長
中村 健一



循環器内科医長
木山 卓也



外科医員
上村 紀雄



糖尿病センター医員
古荘 達哉



整形外科医員
後生川 輝



泌尿器科医員
石崎 宏志



皮膚科医員
大潮 雄大



放射線科医員
佐藤 加奈子



腎センター医員
倉嶋 愛



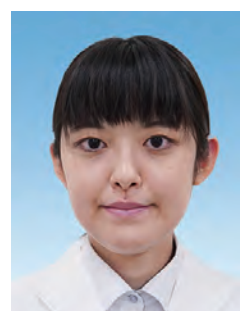
外科医員
最勝寺 仁志



整形外科医員
生田 純基



耳鼻咽喉科・
頭頸部外科医員
馬淵 大輝



血液内科医員
今田 真亜子



糖尿病センター医員
藤本 博樹



腎センター医員
丸目 高大



外科医員
小野 浩輔

入退院支援センターのご紹介

地域医療連携室

この度、病院の増改築に伴い、2023年8月に**入院案内機能の強化と患者サービスの向上を目的に入退院支援センターを開設**しました。

当センターの主な業務は、入院される患者さんやご家族が安心して治療が受けられように入院生活に関するオリエンテーションや医療・ケア・意思決定などに関する問題などをお聞きし、意向に沿った切れ目のない退院支援の一端を担っています。また、入院決定時から多職種協働で入退院に関連した患者サービスを向上し、**安全で安心した入院生活を送るための支援体制を構築**しています。

今後も、より一層、病院と地域における切れ目のない連携体制を構築し、多職種が協働して支援を行うことで、**患者さんやご家族がいつまでも安心して在宅での生活を継続することができる地域づくり**をめざしております。



こんにちは赤ちゃん



ご出産おめでとうございます

当院はこの度、産科を再開し、安全で快適な療養環境の整備や、医師・助産師・看護師・栄養士等による産科チームづくりなど、**全ての受け入れ体制が整いました。**

3月には無事、**緊急帝王切開にて元気な男の子の出産**を迎えることができ職員一同喜んでおります。

今後も、職員一丸となり、**熊本県南における周産期医療の拠点**に向けて、精進して参ります。

地域で連携して二次性骨折予防に取り組む

整形外科医長 福田 雅俊

骨粗鬆症とは骨が脆くなってしまう疾患のことで（下図左）、日本には推定1280万人（男性300万人、女性980万人）の患者さんがいるとされており、特に女性では60歳代の5人に1人、70歳代の3人に1人、80歳代の2人に1人が骨粗鬆症といわれています。骨粗鬆症は、**高齢の方が骨折する大きな原因の一つ**であり、特に足の付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）が起これば、日常生活に支障が出たり、QOL（生活の質）が悪化したりすることがあります。当院では年間約200人の方が大腿骨近位部骨折にて手術を要しており、その内の約13%は二次性骨折（大腿骨近位部骨折の術後に反対側を骨折すること）によるものでした（2021年度調査）。

こうした現状を打開すべく、国の方針として令和4年度診療報酬改定において、二次性骨折予防継続管理料（下図右）を新設し、大腿骨近位部骨折の患者に対する早期からの適切な医療提供と医療機関間の連携を評価することで、**継続的な二次性骨折予防への取り組みを推進**しています。当院では2023年4月より二次性骨折予防継続管理料1の算定を開始致しました。算定にあたって、大腿骨近位部骨折の術後に胸腰椎レントゲン撮影や骨密度測定、採血を行い骨粗鬆症の評価を行った後に骨粗鬆症治療薬の投与を開始しております。術後のリハビリテーションを行う回復期病院に転院した後も骨粗鬆症治療薬の投薬を継続頂いておりますが、回復期病院を退院後に残念ながら骨粗鬆症治療が中断されてしまうケースもあるようです。このようなケースを少しでも減らすために、半年に1回八代地域の整形外科の先生方にお集まり頂き**意見交換会を開催し、地域で連携して二次性骨折予防**に取り組んでおります。今後は八代地域における骨粗鬆症治療の連携をより強めるために、整形外科以外の先生方にもご参加いただきたいと思いますと考えている所存です。

また、当院では**骨粗鬆症の早期診断や治療にも積極的に取り組んでおります**。専門的な知識と経験に基づいた最新の治療を提供できるようにスタッフ一同努めておりますので、骨粗鬆症の診断や治療でお困りの症例がございましたら、お気軽にご紹介ください。



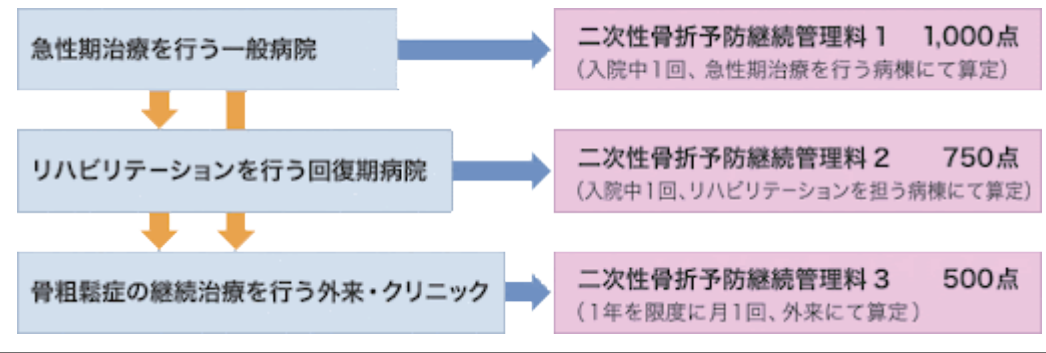
健康な方の腰椎



骨粗鬆症患者の腰椎

二次性骨折予防継続管理料

2022年4月より新設された診療報酬で、骨粗鬆症による二次骨折を予防することを目的としています。



熊本総合病院リハビリテーションセンター、リスタート

リハビリテーションセンター 副理学療法士長 泉 輝久雄

2024年3月、当リハビリテーションセンターは北館3階へ移転しました。この背景として、年間新規処方件数が開設時1241件から2023年度2851件へと2倍以上に増加しており、整形外科領域における外傷・変性疾患症例、脳卒中症例、心・血管症例などリハビリに関係するすべての部門で症例数が増加し、リハビリニーズの高まりを反映していると思われます。**この移転により、総面積約800㎡の広大な空間でリハビリを提供できる環境が整備されました。**



さらに、2024年4月からはリハビリ療法士を9名採用し、理学療法士17名、作業療法士8名、言語聴覚療法士4名、歯科衛生士1名、**総勢30名**となりました。これまで療法士数とリハビリ症例数のバランスから、必ずしも十分な量のリハビリを提供できなかったこともありましたが、今回の**人員増加に伴い必要十分なりハビリ「量」を確保し、各療法士が専門性の高い知識・技術習得を目指すことで、さらなる「質」の高いリハビリ提供**を行っていきます。

当院の方針の一つに地域社会への貢献とあり、その一環として当センターは**県指定の地域密着リハビリテーションセンター**として、地域住民に向けた講演や運動指導を行ってきました。2021年からは脳卒中患者さんの運転再開支援など、地域への幅広い貢献を行っています。今後も病院の枠を超えた地域医療への貢献として、年々その範囲を拡大してまいります。

患者さんへのサービス向上だけでなく、地域社会へのさらなる貢献を目指してまいりますので、今後とも当センターへのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



腎センターだより



当院の腎センター透析室は県南最大の60床で稼働しており、最新の透析装置や情報管理システム、超音波診断装置など、県内でもトップレベルの設備を備えています。スタッフは医師5名、看護師17名、臨床工学技士8名が在籍しており、各分野の認定を取得したスタッフが連携し、非常に質が高く安全で効果的な治療を提供しています。

さらに透析治療だけではなく、当院は27の診療科を有する総合病院です。透析日に他科への受診が可能で、横断的な連携で病気の早期発見、治療を受けることも可能です。当腎センター透析室では、地域中核病院として、総合病院として、住民の皆様が明日への希望を持てるような医療を提供すべく、スタッフ一同日々邁進しています。

健康管理センターだより

心臓の異常を早期に発見するためのドック

令和6年1月より『心臓ドック』が始まりました。心臓の動きや心筋梗塞、狭心症などが心配な方におすすめです。

【料金】心不全：9,900円 狭心症：4,400円 心臓専門：49,500円

	内容	心臓CT	心エコー	ABI	心電図	心不全マーカー	採血
心不全	主に心臓の動きを詳しく検査します		○			○	
狭心症	主に狭心症や心筋梗塞などを検査します	○	○	○	○	○	
心臓専門	心臓病全体を検査します	○	○	○	○	○	○



駐車場のご利用について

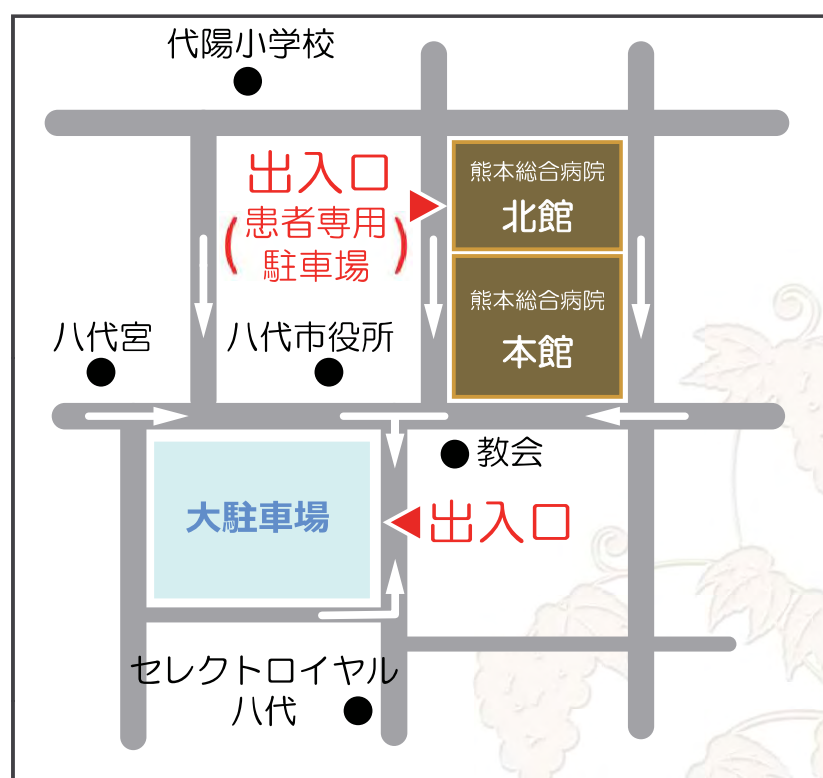
患者専用駐車場

熊本総合病院北館1階に**患者専用駐車場**をご用意しております。屋内の駐車場ですので天候に左右されずご利用いただけます。**無料**ですが、**認証が必要**です。

大駐車場

基本的に**無料**ですが、**平日は当院による認証が必要**となっております。**土日祝日は市街地活性化のために認証不要**です。

22時以降の駐車はできません。(以降は高額な駐車料となります)



JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町10番10号

電話 0965-32-7111(代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>

発行日：令和6年4月16日

発行責任者：病院長 島田信也